

すずかんの

## 医療改革の「今」を知る

医療政策は  
合成の誤謬が  
起きています。

第27回

11

月10、11日、「現場から  
の医療改革推進協議  
会」第2回シンポジウムが、

東京大学医科学研究所大講堂  
で開催され、大盛況に終わり  
ました。医療者、患者、研究者  
報道関係者、政策立案者など  
幅広い分野から多くの方々に

ご参加いただき、問  
題の構造が立体的に  
浮かび上がってきました。

議題はドラッグ・  
ラグ、未承認薬問題、  
がん対策、医療報道、  
新規医療技術、医療  
紛争処理など多岐に  
わたりましたが、よ  
り混迷を極める医師  
不足、萎縮医療につ  
いては、特に活発な議論が交  
わされました。

この問題をめぐっては、前  
回も問題となった刑事訴訟に  
加え、医療紛争処理に関する  
厚生労働省試案において、診  
療関連死について、全件、厚  
生労働省が設置する医療事故

調査委員会への届出が義務づ  
けられ、さらに、行政処分や  
刑事事件にも連動しうること  
となっているのが医療現場に  
波紋と動揺を招いているとの  
ご発言もありました。

この問題を難しくしている  
のは、それぞれの組織自体は、  
組織目的に忠実にやっている  
ということですが、警察も厚生  
省も、権限を実直に行使しよ  
うとしているにすぎません。

こういった誤謬や悪循環を  
招いているのは、社会システ  
ム自体に問題があり、今こそ、  
医療システムをデザインしな  
おす必要があるとの貴重な発  
言がありました。近年、患者  
と医療者を対決の構造に追い  
込んでしまう裁判に代わって、  
両者の対話を促進する医療メ  
ディエーションという試みが  
始まっており、これを如何に  
普及するかを考えていくべき  
との意見も寄せられました。

社会システムの再設計にあ  
たっては、自分が所属する組  
織の長年の主張をただ繰り返

すだけではなく、異なった分  
野の人々が立場を超えて、鳥  
の目、虫の目で議論しなければ  
なりません。シンポジウム  
には、日本の医療を良くしよ  
うと医療界の名立たる重鎮に  
加え、高裁判事や防衛医官も  
個人の立場で参加くださいま  
した。しかし、現場の抱える  
問題の深刻さを前に、2日は  
あまりにも短すぎました。

しかし、本来、臨床医の生  
の意見を集約し、社会の議論  
をリードする為の組織的な動  
きが見えてこないのは、残念  
です。

現場からの医療改革推進協議会事務総長、  
中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員

## 鈴木寛



すずき・かん ●通称すずか  
ん。1964年生まれ。慶應義  
塾大学SFC環境情報学部助  
教授などを経て、現職。教  
育や医療など社会サービス  
に関する公共政策の構築が  
ライフワーク。